

清潔で美しくすこやかな習慣

快適で使いやすい製品やサービス、情報提供を通じて、人々の、より清潔で美しく、すこやかな習慣の実現と事業のさらなる発展に貢献します。

社会的課題

新型コロナウイルスなどの感染症流行は、健康に深刻な影響を及ぼすだけでなく、感染症の流行を防止するために外出を抑えるなど、社会からの孤立という課題の要因にもなっています。その結果として、それらが経済的な停滞を引き起こしています。

これらの個人的、社会的課題を解決するために、社会全体で「清潔で美しくすこやかな習慣」を身につける必要があると考えます。

方針

花王は、1890年に花王石鹸を発売して以来約130年間、洗浄製品の開発と提供を通じて清潔な習慣の発展に貢献してきました。

また、「誰も取り残さない」という考えのもと、学校、地域、他企業等と連携し、衛生習慣定着に向けた啓発活動を推進していきます。

さらに、欧米諸国をはじめ、アジア地域における衛生習慣の定着に向けても積極的に活動していきます。

戦略

リスクと機会

リスク

生活者のリスクとして、啓発活動が定着されなかった場合、衛生面においてサステナブルな生活ができなくなることが考えられます。

花王のリスクとしては、生活者の衛生に対する意識やニーズの変化に対応できなければ、共感が得られず、企業価値やブランド価値、ロイヤリティが低下し、収益性やマーケット競争力を低下させる可能性があります。

機会

こうした変化やリスクをチャンスとして捉え、この変化に先んじた製品やサービス等を提供することで、ロイヤリティ向上や収益性向上につながる企業活動を推進していくことが重要であると考えています。

戦略

花王は、独自の技術や品質管理によって信頼性の高い製品を幅広く提供し、多くの生活者から支持されています。生活者の衛生に対する意識やニーズの変化にいち早く対応した製品を引き続き提供していきます。

また、衛生啓発活動を感染症拡大時でも推進できるように変化させていきます。

社会的インパクト

「清潔で美しくすこやかな習慣」が定着することにより、生活の質の向上や衛生状況の改善、感染症リスクの軽減につながることを期待できます。また、その結果、医療費の低減にもつながる可能性があります。

貢献するSDGs



事業インパクト

手洗い習慣がある日本においては、子どもの頃から衛生行動を学び、習慣化することによりハンドソープや消毒液、除菌関連製品の使用率や使用頻度の拡大が見込まれます。また、こうした日本の衛生習慣を海外に広めていくことにより、特にアジアにおいては衛生習慣が高まることで、衛生関連製品のマーケットの拡大に貢献します。また、このことは、ステークホルダーからの信頼やロイヤリティ向上に貢献し、花王の利益拡大につながります。

清潔で美しくすこやかな習慣

ガバナンス

体制

取締役会の監督のもと、「清潔で美しくすこやかな習慣」に関するリスク管理は内部統制委員会で、機会管理はESGコミッティで行っています。これら委員会の委員長は共に代表取締役 社長執行役員が務めています。

「清潔で美しくすこやかな習慣」に関するリスク管理は、内部統制委員会(年2回開催)とその下部組織のリスク・危機管理委員会(年4回開催)で実施しています。委員長はコーポレート戦略部門担当役員が務めています。

「清潔で美しくすこやかな習慣」に関する機会管理は、ESGコミッティ(年6回開催)で実施しています。外部有識者で構成されるESG 外部アドバイザリーボードがESGコミッティの諮問に対する答申や提言を行い、社外の視点を経営に反映し、ESG 推進会議がESG 戦略を遂行します。

P25 Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

教育と浸透

花王では2009年から2019年にかけて、全社員のESG活動への参画を促す一環として、小学校低学年を対象とした「手洗い講座」をはじめとする出張授業を行ってきました。社員が参加することにより子どもを

含めた生活者と直接コミュニケーションをとることで、製品開発に活かされていました。

しかし、コロナ禍において小学校に社員が出張して授業をすることにより、感染を広げてしまう懸念がある一方で、コロナ禍だからこそ、より多くの子どもたちに正しい衛生行動を身につけてもらうことの重要性が高まってきました。そこで、2020年からは、リモート授業や教材提供により、未就学児や小学校、特別支援学校で先生が授業の一環として実施できるプログラムを制作し、提供してきました。

ステークホルダーとの協働

グローバルな視点においては、各国の衛生課題に対して、高い技術力を持って政府や国の機関と連携して活動しています。

P62 主な取り組み

主に国内においては、教育プログラムを教育現場と連携し、開発しています。

P61 主な取り組み

自治体や流通にも協力を呼びかけ、啓発機会を拡大しています。

花王グループ社員は、自治体、流通、教育施設などの

ステークホルダー向けに、花王の知見をもとに啓発活動を行っています。

2023年の啓発講座回数は約5,500回(のべ約160,000人)。内訳は衛生習慣の醸成を主とした未就学児向け講座(約1,500回)、学校でのSDGs、身だしなみ講座(約1,200回)、主に高齢者を対象とした自治体の施設や公民館での講座(約2,100回)、企業の従業員向け講座(約500回)などでした。

また自治体や地場の流通が主催するSDGsや環境イベントなどに参画し、地域の課題に即した啓発活動を共に実施するなど、協働で地域貢献へのお役立ちした事例も増えてきました。

今後は集合形式やリモート形式での参加が困難な地域や施設、従業員向けに限定動画配信を開始するなど、参加方法や時間帯を拡充することで、より参加しやすい環境を整えて、啓発人数の拡大を図る予定です。

リスク管理

世界的に新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症が懸念される昨今、社会の要請に対応した製品開発や啓発活動であるために、生活者のニーズを正確に把握する必要があります。

そのために、常に生活者の声に耳を傾け、さまざまな活動に反映しています。

清潔で美しくすこやかな習慣

主な取り組み

指標と目標

中長期目標と2023年実績

2030年長期目標

花王の製品やサービスを使い、「清潔で美しくすこやかな習慣」を身につけるために実施した啓発活動で到達した累積人数

2030年目標:1億人

2023年実績

0.59億人

2023年実績に対する考察

新型コロナウイルス蔓延時に比べ、衛生製品の出荷数は減少しましたが、生活習慣は着実に根づいてきていると考えます。

引き続き、教育機関・公共団体・自治体などとの横断的なコラボレーションにより、啓発活動を推進していきます。

啓発活動で到達した累計人数は、2030年の目標に対して計画どおり進んでいます。

日本では、学校の先生が自ら実施できる教材の提供を中心に、リモート形式を含む出張授業も併せてより多くの教育機関へアプローチし、未就学児や児童の衛生習慣の定着をめざしています。また、アジア地域や欧米においても、日本と同様に、正しい情報発信や衛生啓発活動を広げていきます。

教材提供による次世代育成

花王は、“自分の衛生状態を保つ”ことは、“社会(身近な人たち)の衛生状態を保つ”といった衛生的な意識への理解を深めることにつながるという考えを持っています。

社会の変化に対応したプログラムの提供を通じて、子どもたちの“生きる力”と“思いやる心”を育むための次世代育成活動に取り組んでいます。



花王次世代育成

<https://www.kao.com/jp/education/next-generation/>

衛生習慣化プログラム「みんなで手洗い 養護学校向け」

花王では、上手な手洗いを楽しく学び、衛生的な習慣を身につけてほしいという想いから、2021年に衛生習慣化プログラム「みんなで手洗い」の教材を制作しました。全国の小学校の58%※1(約11,000校)、全国のろう学校の73%※1、全国の盲学校の86%※1で活用されています。また、手洗いを習慣化した次のステップとして、身の回りを「衛生的に保つこと」の大切さを理解する、衛生習慣化プログラム「みのまわりをきれいに」は、全国約2,900校(累計)の小学校でご活用いただいています。

そしてこのたび、特別支援学校の知的障がいのある幼児・児童にも、衛生的な習慣を身につけてほしいと考え、手洗い教材を制作しました。教材の制作にあたっては、先生のご意見をもとに、子どもたちが上手な手洗い

を楽しく学べるよう、さまざまな工夫を施しています。例えば、授業用のスライド教材は、子どもたちが見やすく疲れにくい「白黒反転文字」を採用し、視覚からの理解を促すために、シンプルなイラストを多用。「上手な手洗い」をわかりやすい表現で示すことにより、スムーズに習得できるようにしています。また、6つの手洗いポーズをしっかりと学べる花王「あわあわ手あらいのうた」練習用も併せてご用意しています。

※1 2023年11月現在



授業用のスライド教材



実習用教材

清潔で美しくすこやかな習慣



衛生習慣化プログラム「みんなで手洗い 養護学校向け」を制作
<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20231204-001/>

環境プログラム「ごみゼロチャレンジ」

ごみを減らすための工夫や努力を学ぶことを通じて、社会課題に対して自分の考えを持つと共に、主体的に関わり、課題を解決する力(社会に参画する力)を育むことをねらいとしたプログラム「ごみゼロチャレンジ」を開発。小学校4・5年生を対象に、2022年4月より提供しています。2023年には教材の一部をデジタル化して提供しています。2022年からの累計で全国約1,000校の小学校でご活用いただきました。



インドネシアでも手洗い啓発を展開 (WOTA 株式会社との協業)

花王インドネシアは、国内各地での手洗いイベントやアウトドアイベントに自立型手洗いスタンド「WOSH」を設置して手洗いの啓発に努めています。また、インドネシアの保健省・国家教育省と共に、小・中学校の児童・生徒に衛生習慣の大切さを啓発する学校支援教育プログラム「Anak KAO」の一環として、西ジャワ州のきれいな水へのアクセスが困難な中学校3校に「WOSH」を設置し、衛生意識の向上と手洗いの定着・習慣化、及びQOL向上に対する実証を行いました。

ここで得られた知見をもとに、今後はより現地の人々の衛生意識・実態、及び現地の衛生状況やインフラにマッチしたソリューションの提案を行う予定です。



花王とWOTAが「水」と「衛生」に関する領域で業務提携
<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2022/20220302-001/>



タイで蚊による感染症被害を削減する取り組み

2022年、花王はタイで蚊から未来のいのちを守る「GUARD OUR FUTURE」プロジェクトをスタートさせました。このプロジェクトでは、世界で最も人間の命を奪っている生き物である「蚊」による感染症に注目し、特に東南アジアを中心に社会問題となっているデング熱被害をなくすことをめざしています。

蚊による感染症からいのちを守るには、生活者一人ひとりの意識と行動の改善が必要なため、現地政府や他企業との連携を通じて啓発活動を開始。特に感染者が多い次世代にターゲットを絞り、学校での活動なども積極的に進めています。

さらに、花王が独自に開発した「蚊が肌に留まらない技術」を応用した「ビオレガード モスブロックセラム」を2022年に発売しました。2024年からはシンガポールほか、台湾、香港、マレーシアでの販売も開始し、プロジェクトとしての活動も拡大していく予定です。また2024年2月～3月には、SNSを活用した新たなキャンペーンをアジア10の国・地域で展開しました。これは

清潔で美しくすこやかな習慣

対象国・地域のビオレ公式 SNS アカウントが連携し、投稿への“いいね”数に応じて同製品をデング熱被害が拡大するエリアに寄付するものです。



「GUARD OUR FUTURE」プロジェクト
SNS への“いいね”アクションで「蚊から未来のいのちを守る」
～アジアのビオレ公式 SNS アカウントがキャンペーンを展開～
[https://www.kao.com/jp/newsroom/news/
release/2024/20240209-002/](https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2024/20240209-002/)

社員の声

革新的取り組みによるKirei Lifestyleの教育



Adam Recarlo Zulkarnaen

花王インドネシア 商品開発部

2022年、私たち花王インドネシアはKireiのメッセージを具現化するために、適切な衛生設備を提供し、個人の衛生の重要性を教育するという明確な目標を掲げてこのプロジェクトを始動しました。そしてその一環として、私たちは地方のコミュニティの手洗いを革新的に向上させる手洗いスタンドWOSHを導入する計画を立てました。導入までには、輸入手続きの指示に始まり、運用の複雑さの把握、進むべき方向の決定など、さまざまな挑戦がありました。しかし、Biore チーム、KI Corporate Communications、そしてその他のさまざまな部門のサポートと協力により、WOSHをコミュニティに導入することに成功しました。

2023年末までに、私たちは、インドネシアの保健省・国家教育省のサポートを受け、花王インドネシアの Corporate Communications team と共に Anak KAO (Kreatif(クリエイティブ)、Aktif(アクティブ)、Optimis (楽観的)の略) プログラムや世界手洗いの日といった多くの活動を通じて、15,000人以上の人々にWOSHで手を洗っていただき、個人の衛生の重要性を訴えることができました。これらの活動は人々、特に子どもたちに喜びと熱意をもたらし、私はその革新的な取り組みが衛生と節水に与える多大な影響を理解することができ、手洗いと清潔な水の確保に関する意識を高める取り組みの重要性を身をもって学びました。

当初はさまざまな困難があったものの、実りある成果が得られたことで、私はこの取り組みを支持していこうという決意を新たにしました。今後も、我々のコミュニティだけに留まらず手洗いや節水などの重要な習慣を促進することに専念し、Kirei Lifestyle 実現のための努力を続けていきたいと思っています。

清潔で美しくすこやかな習慣

ステークホルダー・エンゲージメント

米谷 一雄 氏

全国特別支援学校知的障害教育
校長会 会長
東京都立水元小合学園 校長



東京都立水元小合学園は、就業技術科(知的障がい・高等部)、肢体不自由教育部門(小・中・高等部)を設置する併置型の特別支援学校です。開校して、2024年度が10年目となります。就業技術科は、軽度の知的障がいの生徒が在籍し、卒業後は、障害者雇用で一般就労をめざします。これまでに、450名近い卒業生を輩出し、ほとんどの生徒が就労すると共に、現在も社会で力を発揮しています。一方、肢体不自由教育部門は、重度心身障がい児から知的発達には問題のない身体障がいのある生徒までが在籍しています。障がいの状態や個々の実態の幅が広いため、カリキュラムを3段階に分けて学習活動を行っています。両部門共に自立と社会参加を目標として、生きる力を育成し、将来に渡って人生を豊かに送れるよう、「日々全身・毎日真心」を校訓に、一人ひとりの

歩みを支える学校をめざしています。

さて、新型コロナウイルス感染症の発生から4年が過ぎました。感染症の対策として、マスクの着用やアルコール消毒等、三密を避ける対応をしながら、新しい日常が定着しましたが、コロナ禍以後は、少し、感染対策に対する意識が薄くなったように感じます。インフルエンザ等の流行は、その顕著な例ではないかと思います。感染症がなくなった訳では決してないことを改めて認識し、今後も必要な対策を継続することで、一人ひとりの健康を守っていくことが大切です。そして、そのための一番身近な方法は、手洗いの徹底ではないかと常々感じていました。そんな折、花王様から手洗いの教材を提供いただける相談がありました。すでに、盲学校、ろう学校、小学校にかなりの割合で導入されていることから、知的障がいのある幼児児童にも広げたいという主旨でした。教材については、視覚障がい児用の教材をベースに、知的障がいのある幼児児童の特性を踏まえた内容に改善されていました。目に見えない汚れを可視化することで、洗い残しに気づき、正しい手洗いを身につけることができます。また、使用する教員が、幼児児童の実態に応じて教材を変更できることも実用的でした。花王様の先進的な取り組みに感謝すると共

に、この教材が全国の知的障がい教育校に広がり、効果的に活用されることを願っています。



全国特別支援学校知的障害教育校長会
<http://www.zentoku.jp/dantai/titeki/index.html>
東京都立水元小合学園
<https://mizumotokoai-sh.metro.ed.jp/site/zen/>